

経済連情報 8

安全・安心・新鮮でおいしい
静岡県産の農畜産物をお届けします。

● 2024. 8
● NO.1319

「みどりの食料システム戦略」に 対応する県産米拡販の取組について

Main topics

「みどりの食料システム戦略」に
対応する県産米拡販の取組について ……01

topics&news

最新農機でトータルコスト低減を提案
JA農業機械大展示会を開催 ……03

県産農産物の消費拡大へ
首都圏で「アグリセレクトフェア」を開催 ……03

柑橘産地の維持・拡大へ
自動航行ドローンで急傾斜地地の防除試験を実施 ……04

品質改善・安定生産のために
第48回静岡県桃果実品評会 ……04

静岡いちごの栽培技術の研究と振興
静岡県いちご生産者研究大会 ……05

消費地や市場の動向を現地で学習
大阪府内でマーケティング研修を開催 ……05

県産農産物の安定生産を
令和6年度営農技術コンサルタント会議を開催 ……05

静岡茶の美味しさをPR
「揉一ひとえ つゆひかりブレンド」試飲即売会を開催 ……06

農作業中の熱中症を未然に防ごう
熱中症対策講座を開催 ……06

農協葬祭事業の基盤強化
静岡県農協葬祭事業連絡協議会総会および
第1回静岡県農協葬祭事業連絡協議会 ……06

最新研究紹介

カンキツの病害虫防除におけるドローンの利用法 ……07

お知らせ

テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」のご紹介 ……09

JAタウンしずおか「手しお屋」おすすめ商品のご紹介 ……09

職員紹介 ……10



▲JA農業機械大展示会



▲第48回静岡県桃果実品評会

「みどりの食料システム戦略」に

対応する県産米拡販の取組について

I はじめに

近年、わが国の食料・農林水産業は気候変動や生物多様性の低下など食料システムを取り巻く環境の変化が課題となっています。

農林漁業従事者の行動変容と新たな技術の開発・普及が求められる中、農林水産省が令和3年度に「みどりの食料システム戦略」を策定しました。本会においても、農業現場における環境負荷低減や持続可能な食料システム構築への対応が求められています。

今回のメイントピックスでは、「みどりの食料システム戦略」に対応する取組として食糧課が実施した環境

に配慮した県産米拡販の実施について詳しくご紹介します。

II みどりの食料システム戦略とは

「みどりの食料システム戦略」は、農林水産省が令和3年に策定した政策方針。革新的な技術と生産体系の開発を通じ、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立の実現を掲げています。具体的な数値目標として、CO₂ゼロエミッション化の実現や化学農薬使用量の50%低減、耕地面積に占める有機農業の取組面積を25%拡大などがあります。令和4年度には環境と調和のと

れた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律「みどりの食料システム法」が施行されました。

III 環境に配慮した県産米拡販の取組

1. 見える化実証事業について
本会食糧課は今年度、農林水産省が進める「温室効果ガス削減の見える化実証事業」に参加し、県産米で

の実証を行いました。

取組は、環境負荷低減に貢献する製品・サービス等の消費を促す施策です。農産物の生産過程での温室効果ガス排出削減の貢献や生物多様性保全の取組を農林水産省の算定により定量的に評価。星の数で等級を表示、ラベルやポップ等で消費者へ削減効果や生産者の取組をアピールします。(写真1、2)。今年3月からは新たなラベルデザインで本格運用が始まり、全国の産地で取り組まれています。

ラベルは、消費者がラベルを「見て」、環境負荷低減に資する農産物を「選べる」という願いが込められ、「みえるらべる」の愛称が付けられました(写真3)。



▲写真1
温室効果ガス削減のラベル表示



▲写真2
温室効果ガス削減と生物多様性保全のラベル表示



▲写真3
環境負荷低減の取組を伝える「みえるらべる」

出典：農林水産省Webサイト
https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/b_kankyo/240614.html

削減の取組は、化学肥料・化学農薬の使用低減やスマート農機の利用、バイオ炭や堆肥の施用などがあげられ、水稲栽培では生産の過程で水田の水を一時的に抜く「中干し」期間の延長や稲刈り後すぐに水田を耕す「秋耕」の実施（写真4）などにも有効とされています。



▲写真4
秋耕で灌水前に稲わらの分解を進め、メタンガスの発生を抑制

2. 温室効果ガス排出削減貢献量の算定方法について
農業由来の温室効果ガスの排出は、生産に伴い直接排出されるものに加え、肥料などの農業資材の原料生産や製造、電力等のエネルギー調達時の発生も考慮する必要があります。原材料調達から生産活動までの各段階にかかる温室効果ガス排出の削減と吸収量を生産者の栽培情報を用いて算定し、評価します。



▲写真6
杏林堂薬局の店頭に並んだ掛川コシヒカリ



▲写真5
星3評価の「みえるらべる」

3. 県産米での実証
食糧課は、JA掛川市産の「掛川コシヒカリ」の令和5年産米で温室効果ガス削減を実証しました。県産農産物では初めての実証となります。「掛川コシヒカリ」は化学肥料・化学農薬と燃料・電力の使用量、秋耕の実施状況などの各項目から算定し、農産物10kgあたり30・75%（表1）の削減が認められ、3段階の評価の

表1 令和5年産掛川コシヒカリ
農産物10kgあたりの温室効果ガス
排出削減貢献量 (CO₂換算値)

GHG削減貢献量 (対標準値) ※マイナス表記が削減分、プラス表記は増加		割合
合計	-3.94kg-CO ₂ e/10kg	-30.75%
農薬	+0.02kg-CO ₂ e/10kg	+2.9%
肥料	-0.87kg-CO ₂ e/10kg	-67.8%
プラスチック資材	-0.00kg-CO ₂ e/10kg	-9.6%
燃料・電力	-0.87kg-CO ₂ e/10kg	-39.0%
土壌N ₂ O	-0.39kg-CO ₂ e/10kg	-54.6%
水田CH ₄ *	-2.25kg-CO ₂ e/10kg	-18.6%
残さ焼却	0.00kg-CO ₂ e/10kg	0.0%
土壌への炭素貯留 (マイナス分)*	+0.41kg-CO ₂ e/10kg	+9.6%

*水田由来CH₄は米のみに反映される項目で、その他の農産物には計上されません。
*土壌への炭素貯留（マイナス分）には、バイオ炭、堆肥の施用による効果が含まれます。
堆肥の施用による土壌への炭素貯留の算定式は、簡易に試算するため、圃場場所等について特定の条件を仮定しています。

今回のメイントピックスでは、みどりの食料システム戦略に対応する食糧課の取組を紹介しました。

IV おわりに

うち最も点数の高い星3のラベル表示となりました（写真5）。
7月には、県内でドラッグストアを展開する杏林堂薬局の38店舗で、約1,000袋が店頭に並び、販売を実施しました（写真6）。
食糧課は、今後も継続的な販売に向け、協議をすすめていきます。

本会では、未利用資源を活用した肥料の普及拡大や、スマート農機の提案、リサイクル原料・バイオマス原料を使用した農業資材の取り扱い拡大など、様々な部門で環境負荷低減の取組を推進しています。令和6年度も「みどりの食料システム戦略」に対応したこれらの取組を引き続き実践し、環境に配慮した静岡県農業の持続的発展に貢献してまいります。

問い合わせ先
●食糧部 食糧課
電話：054428419737

最新農機でトータルコスト低減を提案 JA農業機械大展示会を開催

7月5日と6日の2日間、県内JAと本会は、吉田町の吉田公園西側特設会場で「令和6年度JA農業機械大展示会」を開き、組合員ら4、700人以上が来場しました。

農機メーカー約20社が出席し、「もつと楽に！もつと快適に！もつと能率よく！」をテーマに最新のトラクターや防除機、小型耕うん機など、安心・安全で便利な農業機械を展示販売しました。

会場では、各メーカーによるラジコン草刈機や直進アシスト機能を搭載した田植機などのスマート農機の実演も行われ、労力軽減をアピールしました。

主催者を代表し、挨拶した河原崎友二経営管理委員会会長は「農業の生産性の向上と省力化には農業機械の普及が欠かせない、組合員のトータルコストの低減に向けJAグループ一丸となって取り組んでいく」と話しました。



▲開会式の様子



▲組合員らでにぎわう会場



▲ラジコン草刈機の実演



▲最新農機を紹介するメーカーのブース

県産農産物の消費拡大へ 首都圏で「アグリセレクト フェア」を開催

みかん園芸部は、6月18日～20日の3日間、県マーケティング課と連携し、都内のJR新宿駅西口広場で開催された「アグリセレクトフェア」に参加しました。取組は関東地方知事会に所属する1都9県が連携し、国産農産物の消費拡大を目的に開催しているもので、各都県の旬の農産物や加工品を消費者へPRしました。

本会からは、馬鈴薯や葉しょうが、ガーベラなどの県産農産物と静岡茶のPRとして「搦一ひとえつゆひかりブレンド」を販売しました。



▲本県の出店ブース

柑橘産地の維持・拡大へ 自動航行ドローンで急傾斜園地の防除試験を実施

生産振興開発課は5月22日、J Aふじ伊豆、J A全農、県、沼津市、K D D I (株)と連携し、「西浦みかん」園地で、生産能力維持・拡大を目的としたリモートセンシング(自動航行)によるドローン防除実証実験を行いました。

実証実験では、生産者や関係者ら約50人が見守る中、D J I社製のT25を用いて実施しました。

同地区は、園地全体の57%が斜度20以上の急傾斜地が占めており、農作業負担が大きく、生産者の高齢化に伴う産地の維持が課題となっています。

そこで、6者が協力して新たな防除体系を確立し、生産能力の維持・拡大につなげることが今回の狙いです。試験期間は3年とし、13・5坪の園地で試験区と慣行区を設置、防除時期に合わせて年7回の農業散布を予定。収穫前に効果を確認し、6者で課題を検討します。

使用したドローンは沼津市の「スマート農業技術の活用による産地活性化事業」の支援を受けて同J Aが取得しており、令和9年度からの作業受託事業化を計画しています。



品質改善・安定生産のために 第48回静岡県桃果実品評会

6月18日、静岡県落葉果樹振興協会(事務局・柑橘果樹課)と本会は、静岡市駿河区のJ A静岡市長田支店で、「第48回静岡県桃果実品評会」を開きました。

品評会にはJ A静岡市から「日川白鳳」、「暁星」の2品種22点が出品されました。県果樹研究センターや静岡市などの職員と本会コンサルタントら7人の審査員により、形状や色つやなどの外観と、食感や味などを試食や糖度計を使って審査しました。審査長を務めた静岡県果樹研究センターの伊藤直樹センター長は「今年度は天候に恵まれたこともあり、生育は良好で、病害虫の被害も少なかった。生産者の努力で、出品された桃はどれも高いレベルで品質が揃っていた」と講評しました。

上位入賞者は次のとおり(敬称略)。



▲金賞を獲得した梅木さんの桃



▲審査の様子

金賞

静岡県経済産業部長賞
静岡市長賞

梅木 フキ江

銀賞1席

静岡県農林技術研究所果樹研究センター長賞

静岡県経済農業協同組合連合会代表理事理事長賞

杉山 真美

銀賞2席

静岡県京浜地区果実流通協議会会長賞
静岡市農業協同組合代表理事組合長賞

杉浦 辰男

銅賞

杉山 義行
尾崎 寿一
岡田 和明
杉本 剛一
杉本 文彦

静岡いちごの栽培技術の研究と振興 静岡県いちご生産者研究大会

静岡県野菜振興協会、静岡県農協
営農技術員会、本会（事務局・野菜
花卉課）の3者は7月9日、静岡市
駿河区のグランシップで「令和6年
度静岡県いちご生産者研究大会」を
開き、生産者とJA職員ら約280
人が参加しました。

大会では、昨年12月に開催した
「第34回静岡県いちご果実品評会」
の表彰式を行い、上位入賞者へ賞状
を授与しました。

県農林技術研究所の研究者と本
会の営農技術コンサルタントは、病
害虫防除について最新の研究成果
や湿度管理の方法などについて講
演しました。

本会からは、令和
5年度産の静岡い
ちごについて、販売
実績や消費宣伝事
業の取組を報告し
ました。今年度の生
産に向けては、過熟
による傷みやカビ
が発生しやすい暖
候期の品質維持が
課題とし、品質管理
の徹底を呼びかけ
ました。



▲講演の様子



▲令和5年度の消費宣伝活動を務めた静岡いちご娘



▲表彰を受ける品評会上位入賞者

消費地や市場の動向を現地で学習 大阪府内でマーケティング 研修を開催

野菜花卉課は6月27日と28日の2
日間、大阪市中央卸売市場などで「令
和6年度農協指導・販売担当者マー
ケティング研修会」を開き、県やJ
A、本会の職員ら16人が参加しまし
た。

研修は、消費地で青果物や花きの
市場流通の現場を視察し、実務に役
立てることが目的。参加者は、本会
の役割や県外事務所の取組などに
ついて説明を受けました。

また、市場内や輸出入倉庫、青果
物の業務加工・パッキング施設を視
察した他、JA全農青果センターで
はDX化や物流の効率化に対応した
施設を見学しました。



県産農産物の安定生産を 令和6年度営農技術コン サルタント会議を開催

生産振興開発課は6月19日、令和
6年度営農技術コンサルタント会議
を開き、本会営農技術コンサルタン
トら11人が出席しました。

会議では、各コンサルタントより、
新品種開発や収穫予測アプリ、農業
用ドローンの導入状況など最新の農
業生産技術の情勢や課題を報告。令
和6年度の推進計画を共有し、連携
強化を図りました。





「揉一ひとえ つゆひかりブレンド」試飲即売会を開催

茶業課は6月20日、県農業会館で県内JA統一の新商品「揉一ひとえ つゆひかりブレンド」の試飲即売会を開き、暑い夏の時期にぴったりな水出し冷茶を集まったJA関係者らに提供しました。

試飲即売会では、同課の職員らが商品の特徴や飲み方などを説明し、ティーバッグの手軽さやマイボトルで簡単に本格的な静岡茶を楽しむことをPRしました。



▲熱中症対策を説明する鈴木貴也担当

農作業中の熱中症を未然に防ごう
熱中症対策講座を開催

生活葬祭課は7月17日、JA遠州夢咲浜岡営農経済センターで、JAが主催する「第3回浜岡地区栽培講習会」で熱中症対策について講座を行いました。講座は同JAの別地区を含め3回目の開催となりました。

大塚製薬(株)が主催する「熱中症対策アンバサダー講座」を受講し、「熱中症対策アンバサダー」の認証を受けた本会職員が講師を務めました。

本講座では、熱中症の症状や対処法、水分補給のポイントなどを説明併せて水分補給に適した飲料などを紹介しました。講座終了後には「ポカリスエット(大塚製薬)」などの即売会を実施しました。



農協葬祭事業の基盤強化
静岡県農協葬祭事業連絡協議会
第1回静岡県農協葬祭事業連絡協議会

静岡県農協葬祭事業連絡協議会(事務局・生活葬祭課)は6月14日、静岡市内で令和6年度の総会と第1回の連絡協議会を開き、会員JAとJA子会社の担当者ら19人が出席しました。

総会では、令和5年度事業報告と収支決算、令和6年度事業計画などについて協議し、承認されました。

総会終了後に開催した連絡協議会では、各会員による情勢報告や活動

会員JA・JA子会社		
JAふじ伊豆	(株)ジェイエイ・メモリアルセンター	(株)農協葬祭
JAしみず	(株)JA静岡市やすらぎセンター	(株)ジェイエイ大井川葬祭サービス
JAハイナン	JA掛川市	JA遠州夢咲
(株)ジェイエイ遠中サービス	JAとびあ浜松	JAみっかび

計画の協議などを行い、会員相互の情報共有により、県下農協葬祭事業の活性化と事業基盤の強化を図りました。

協議事項では、令和6年度の県下統一広報活動として、WEB広告等を活用した「静岡県のJA葬祭」、「JAの家族葬」の認知度向上やブランド構築に向けたプロモーション活動について検討しました。

農林技術 研究所 だより

カンキツの病害虫防除に おけるドローンの利用法

一 はじめに

近年、ウンシユウミカンをはじめとするカンキツ類の供給量が不足する一方で、果実の卸売単価は比較的高く安定して推移しています。担い手の減少が進む中、産地の生産力の強化が不可欠であり、農作業を効率化する技術の導入が必要で

す。ウンシユウミカンの年間作業時間は10a当たり約170〜200時間です。そのうち、薬剤防除は収穫や摘果作業に次いで時間がかかるうえ、夏期の防除回数は多く労働負荷も大きいことから、省力化が急務となっています。

そこで、近年、開発による性能の向上が著しく、地形を問わず運用できるドローンを用いた農薬散布の研究に取り組みました。

二 ドローンの運用方法

(1) 飛行経路と散布粒径
水稲や露地野菜と比べ、果樹は立

体的であるため、樹の内側の葉や果実にムラのないように薬液を付着させる必要があります。果樹に合ったドローンの運用方法を検討するため、薬液の代わりに水を散布し、付着性を調査しました。

ドローンを用いて、樹列上を直線的に飛行した場合と、樹1本ずつ樹上で円を描くように螺旋飛行した場合(図1)の水滴の付着性は、直線飛行と比べて螺旋飛行の方が高くなりました。しかし、螺旋飛行は、

直線飛行と比べて散布時間が約3倍かかりました。

より短時間で散布可能な樹列上を直線的に飛行する場合、散布する水滴の粒径が100〜195 μ mの範囲では、粒径が小さいほど付着性が高く、100 μ mでは螺旋飛行との差が小さくなりました。効果とコストの両立を図るために、カンキツでは直線的な飛行経路をと

り、100 μ m程度の小さな粒径で散布するのが効率的と考えられます。

(2) 急傾斜地における飛行経路
斜度25度のカンキツ園でドローンを用いて、(A) 等高線方向に樹列上を往復飛行する経路、(B) 等高線方向に2m間隔で飛行する経路、(C) 斜面上下方向に2m間隔で飛行する経路(図2)の3パターンで散布を行い、樹冠内(地上1m)での水滴の付着性を調査しました。

その結果、飛行経路間で大きな違いは見られませんでした。

私が紹介します!



静岡県農林技術研究所
果樹研究センター
果樹環境適応技術科 研究員
石田 朱里



図1 直線飛行(左)、螺旋飛行(右)

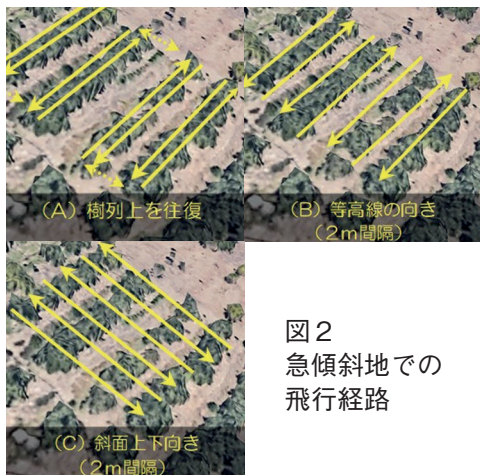


図2 急傾斜地での飛行経路



図3 等高線方向に飛行した場合



図4 斜面上下方向に飛行した場合

急傾斜地では、等高線方向に飛行すると、谷側からの上昇気流により、水滴が山側に流される様子が確認されました(図3)。一方、斜面を上方向に飛行すると、上りではダウンウォッシュ(ドローンが飛ぶために下向きに出る風)が強いため、水滴が風に流されにくく、直下の樹にまっすぐ薬液がかかる様子が確認されました(図4)。

以上の結果から、カンキツ園の地形と飛行の安全性を考慮すると、急傾斜地では、斜面を上下方向に等間隔で平行に飛行する経路(図2C)が推奨されます。ただし、立地条件は多様であることから、葉裏への付着性を含め、さらに検証を進める必要があります。

三 ドローンを用いた農薬散布による防除効果

(一) 殺菌剤

ドローンで使用可能な農薬について、殺虫剤及び殺菌剤の効果を検証しました。ここでは、殺菌剤2剤の結果を紹介します。

トップジンMゾルでは、青かび病・緑かび病・軸腐病に対し、手散布とほぼ同等の効果が得られました(図5)。

ジマンダイセン水和剤では、1mの高さで樹冠内に設置した感水試験

紙の上面に、一定の付着がある場合は、商品価値が下がる「中」〜「甚」の黒点病発生果率が低く抑えられ、手散布とほぼ同等の防除効果が得られました(図6)。ただし、ドローン散布は水量が少ないことから、横風等による散布ムラが生じないように注意する必要があります。

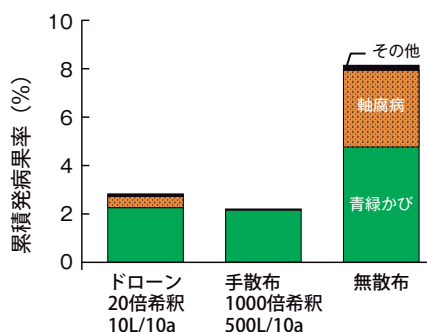


図5 トップジンMゾルを散布したときの貯蔵病害発生程度

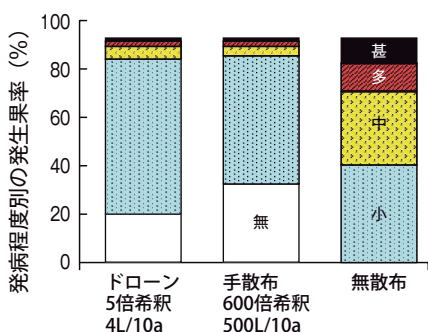


図6 ジマンダイセン水和剤を散布したときの黒点病発生程度

(二) 現場圃場における防除体系の実証

ドローンで使用可能な農薬を用いた防除モデルを作成し、年間9回の薬剤散布のうち、6回をドローンで散布して作業時間の検証を行いました。

斜度25度の園地でドローン散布を行うと、10aあたり平均15・4分で完了でき、手散布の128分と比べて大幅に作業時間の短縮が可能です。急傾斜地のカンキツ園で、天候などの条件が良ければ、ドローンを用いて、1日あたり1・5haに散布が可能ですと推定されます。

年間9回のうち、6回をドローン散布に置き換えた場合の年間の農薬散布にかかる作業時間(10a当たり)は、9回手散布する場合と比べて、61%に短縮が可能です。

今回の実証では、離陸から散布開始までに行う調整に時間がかかっており、これを効率化することでさらに時間短縮が可能です。

四 おわりに

今回の試験は、平坦地と比べ作業効率が悪い急傾斜地で主に実施しました。防除効果を確認するとともに、農薬散布作業の効率化が実証されたことから、ドローンを利用することで平坦地においてもさらなる効率化

が期待されます。

ドローンで使用可能な農薬は徐々に拡大し、カンキツでは年間防除の約6〜7割をドローンで散布できるようになりました。今後、特に散布ムラにより防除効果が減退するとされているハダニやカイガラムシ類等にも安定して効果のある農薬の登録を進めることによって、年間の防除すべてをドローンで実施することも可能になります。

実際に農薬散布用ドローンの導入を検討する場合、運行事業者への委託散布や、経営体及び生産者グループでの自主運用による散布等が考えられます。導入する面積、年間稼働回数等の計画から実際のコストを推定した上で、ドローン導入の目的や経営戦略上の位置づけを明確にする必要があります。

本研究は、農林水産省委託プロジェクト研究「ドローンやセンシング技術を活用した果樹の病害虫防除管理効率化技術の開発」の支援を受けて実施しました。

連絡先

静岡市清水区茂畑

kaju-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp

TEL: 054-376-6154

「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡)

担当：食糧部 食糧課(TEL:054-284-9737)

静岡県産米麦流通連絡協議会(事務局：食糧部)は、テレビ番組「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡・全11回放送)に協賛し、県産米のPRを行っています。

令和6年度の第3回目(7月20日)の放送では、お笑い芸人のモグライダーが浜松市から令和5年産米の食味ランキングで6年連続の「特A」評価を獲得した西部地区産の「にこまる」を紹介しました。

番組では、JAとぴあ浜松の生産者、加茂文俊さんがビデオメッセージで出演し、「にこまる」の美味しさをPRしました。

また、市内の精肉店からは本会ブランド「特選和牛静岡そだち」が紹介されました。



JAタウンしずおか「手しお屋」おすすめ商品のご紹介

今月のおすすめ商品をご紹介します！



9個入り **4,200円**(税込、配送料込み)



三ヶ日みかんアソートセット 9個入り (JAみっかび)

「三ヶ日みかんゼリープレミアム」「三ヶ日みかんシャーベット」「三ヶ日みかんヨーグルトプリン」が各3個ずつ合計9個入りのセットです。静岡県産三ヶ日みかんを贅沢に使用しております。化粧箱入りで贈答にもおすすめです。

8月末までの期間限定商品です。是非ご賞味ください！

しずおか手しお屋 🔍 検索

※販売価格や販売時期は変更する場合があります。

◀商品ページはこちらから

担当：営業部 流通開発課 (TEL:054-284-9728)



▲三ヶ日みかんゼリープレミアム (セット品)

職 員 紹 介

JAや取引先の皆様に推進などでお伺いしている本会職員を紹介します。

趣味・特技

趣味は音楽鑑賞です。SumikaやDISH//、ハンブレッダーズ等幅広く聴いています。涼しい時期に行われる“COUNTDOWN JAPAN”には参戦する予定です。

担当業務

柑橘の指導業務を受け持っています。農家組合員の方々の安定生産が行えるよう、ドローン試験や、情報収集などを行うほか、JAの担当の方同士、農家の方々が話し合える場を設けたりしています。また新品種“春しずか”の普及に向けた取り組みも実施しています。



みかん園芸部 柑橘果樹課
よしだ えり
吉田 衣里

コメント

わからないことばかりではありますが、早く一人前になれるよう、精一杯努めて参ります。
ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

趣味・特技

趣味は、テニスです。中学では軟式、高校では硬式をやっていました。最近では体を動かす習慣をつけるため、高校の友人たちと月に2～3回程度テニスを行い、ストレス解消と運動不足解消に努めています。

担当業務

生活葬祭課では生活、店舗、葬祭のどの分野も対応できるように勉強させていただいています。最近は生活事業の提案や見積書の作成、祭壇設置作業などを学びました。

コメント

生活葬祭課では普段聞かない用語や商品の取扱いが多く存在するため、実際に見て覚え、少しでも早く戦力になれるよう努力していきたいです。そのためにも、多くの情報を吸収しながら、日々の業務に取り組んでいきたいです。



くらし支援部 生活葬祭課
すずき たかや
鈴木 貴也



好評販売中

静岡茶 揉一ひとえ

つゆひかりブレンド

SHIZUOKACHA JUICHIHITOE



詳しくは特設サイトへ



おいしく作り方

マイボトル

STEP1

 ボトルにティーバッグ1袋を入れます。

STEP2

 500mlの水（またはお湯）を注ぎます。

STEP3

 ボトルを振ってお好みの濃さでお飲みください。

ティーポット

STEP1

 水出しポットなどにティーバッグを2袋入れ、約1ℓの水を注ぎます。

STEP2

 冷蔵庫で1、2時間冷やしてください。

STEP3

 飲む前にティーバッグトングなどでティーバッグを絞り、お好みの濃さに調整してお飲みください。

担当：茶業部 茶業課 (TEL：054-284-9719)

